

# 多様な担い手によるコギク産地の維持

県西農林事務所経営・普及部門

J A北つくば花き部会は設立から約20年経ち、『パートに行くなら花を作ろう』から『儲かるコギク経営体』を目標とする経営体が現れてきました。多様な担い手がコギク栽培を行っている中で、平成21年には銘柄産地に指定され、普及センターでは「『1本でも売るからにはプロ』という意識」を醸成しています。部会役員らが中心となって、コギク新規生産者の確保・育成にも取り組んでいます。

## 全員が納得できるコギクづくりへ

5月から12月に及ぶ長期間、安定して出荷が行えるように土づくり・電照栽培・機械化を推進しています。ベテラン生産者は、土壌改良・土壌消毒改善に取り組んで良品生産を実現する一方、若手生産者は、電照栽培による開花抑制や選花機による省力化に取り組んでいます。ベテランと若手がお互いの情報交換の機会を設け、刺激し合いながら、技術の向上を図っています。



移植機実演会の様子

参加した部会員からは、移植機能の一層の改善を期待する声が聞かれました。



新規者栽培説明会の様子

J A北つくば花き部会キク専門部長が中心となり説明会を開催。生産者ならではの丁寧なやり取りがありました。

## 常に担い手募集中

高齢のためコギク栽培を辞めていく方がいる一方で、部会役員らが中心となって積極的に新規栽培者募集に励んでおり、定年帰農者を中心とする新しい生産者が少しずつ増えています。こうして集まった新規栽培者の経営が軌道に乗るよう、部会役員等の地域リーダーがサポートしています。

## いばらき育ちの強みを活かす

県内コギク先進産地のノウハウを学ぶ機会を作るとともに、県園芸研究所だけでなく隣接するつくばの研究機関（農研機構）の試験成果を情報提供し、産地で積極的に活用されています。

現在、県育成品種が部会出荷本数の8%を占めており（県平均4%）、地の利を活かした技術導入などにより、いばらき育ちの品種の強みを活かし、コギク産地の維持に取り組んでいます。

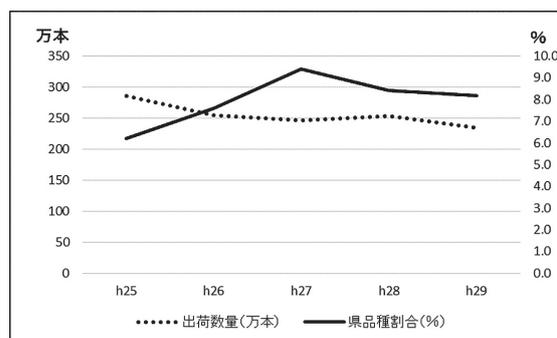


図 部会出荷本数と県育成品種作付け割合の推移